

Panasonic

DVCPRO 50

Editing Control Pad

AJ-A77

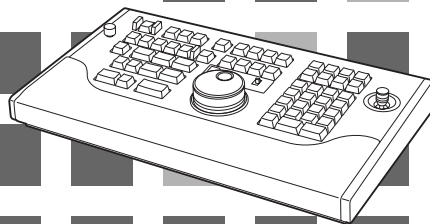
(オプション)

操作リファレンスマニュアル
(for AJ-SF97)

本誌には、Editing Control Pad AJ-A77 (オプション) の操作方法についての内容を記載しております。

ハードウェアに関する内容は、AJ-A77 に同梱されている「Editing Control Pad AJ-A77 取扱説明書」をご覧ください。

また、AJ-DE97 と AJ-A77 の接続方法については、AJ-DE97 に同梱されている取扱説明書の「接続のしかた」をご覧ください。



目次

はじめに	3	レコードトゥビデオでの操作	43
Editing Control Padのセットアップ	4	レコードトゥビデオの起動	43
セットアップユーティリティの起動	4	VTRデバイスの選択	43
セットアップの方法	6	VTRの再生コントロール	44
Editing Control Panelの設定変更	7	VTRの変速再生コントロール	44
全般的な操作	8	ファーストエディットパネルのオープン	44
デジタイザーでの操作	10	VTRへの録画 (Record Back)	45
デジタイザーの起動	10	自動編集環境の設定と編集実行操作	46
VTRデバイスの選択	11	仮想プレーヤーと仮想レコーダー	
VTRの再生コントロール	12	による編集の概要	46
VTRの変速再生コントロール	13	ピン/トリミングパネルの仮想	
クリップタイプの設定	13	プレーヤーマッピング	47
クリップの取り込み (マニュアルモード)	14	シーケンスエディターの仮想レコーダー	
クリップの取り込み (パッチモード)	16	マッピング	49
取り込み中のクリップ分割とアイコン	17	インサート編集の動作	
ピンでの操作	18	([INS CLIP] 操作)	50
ピンでのクリップ再生	18	リプレース編集の動作 ([EDIT] 操作)	51
トリミングパネルでの操作	19	編集実行トラックの指定	53
トリミングパネルの起動と終了	19	インサート/リプレース編集実行操作	54
トリミングパネルでのクリップ再生	20	ダイレクトデジタイズ実行操作	56
イン点/アウト点の設定と解除	22	デリート/リムーブ編集実行操作	57
クリップのトリム操作	22	ディバインド&デリートレフト/ライト機能	58
クリップ操作のUNDOとREDO	23		
タイムラインの表示倍率の変更と			
スクロール	23		
トリミングパネルの設定について	24		
シーケンスエディターでの操作	26		
シーケンスエディターの起動	26		
シーケンス再生	27		
マークイン/マークアウトの設定と解除	29		
タイムラインの表示倍率の変更と			
スクロール	29		
クリップの選択	30		
クリップの削除	31		
クリップの移動と複写	32		
クリップのトリム操作	34		
トランジションアイコンのトリム操作	38		
クリップの分割操作	40		
編集操作のUNDOとREDO	40		
リンク操作とリンクの解除	41		
リバースサーチ操作	41		
クリップの置き換え操作	41		
トランジションパネルの起動	42		
ビデオエフェクトパネルの起動	42		
キーパネルの起動	42		

はじめに

DVCPRO 50 Non-Linear Editing System (NLEシステム) にオプションの Editing Control Pad AJ-A77 を接続することにより、従来の Linear Editing System の操作感覚で、ノンリニア編集を実行していただけます。

編集アプリケーションでは、ピン/トリミングパネルを仮想的なプレーヤーデバイスとして登録し、仮想的なレコーダーデバイスであるシーケンスエディターへの自動編集操作が実現されています。

また、デジタイザーをプレーヤーデバイスとして編集操作を行うことができ、シーケンスエディターへのダイレクトデジタイズ機能が実現されています。

本誌は、編集アプリケーションでサポートされる Editing Control Pad の操作機能について、説明しています。

各アプリケーションの起動方法や詳細については、パッケージに同梱されている「ノンリニア編集ソフトウェア・リファレンスマニュアル」をご覧ください。

Editing Control Pad AJ-A77 のハードウェアに関する内容は、AJ-A77 に同梱されている「Editing Control Pad AJ-A77 取扱説明書」をご覧ください。

また、NLEシステムとAJ-A77の接続方法については、NLEシステムに同梱されている取扱説明書の「接続のしかた」を参照してください。

- Windows、Windows NT は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
その他会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

Editing Control Padのセットアップ

AJ-A77をお使いいただくには、同梱されている編集アプリケーションがインストールされている必要があります。

編集アプリケーションのインストールについては、「ノンリニア編集ソフトウェア・リファレンスマニュアル」をご覧ください。

本誌は、編集アプリケーションがインストールされている状態での、Editing Control Padの設定方法について説明しています。

< ノート >

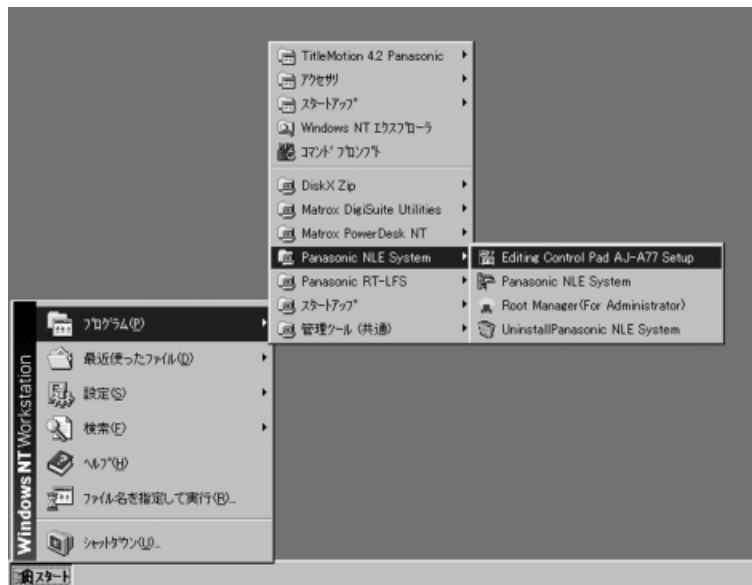
- NLEシステムとAJ-A77の接続方法については、NLEシステムに同梱されている取扱説明書の「接続のしかた」を参照してください。
- AJ-A77に、DVCPRO 25 AJ-DE77編集アプリケーション Ver 2用のセットアップディスクが同梱されていますが、ご使用にならないでください。

セットアップユーティリティの起動

NLEシステム本体部の電源を投入し、Windows NTにログオンします。

全てのアプリケーションが終了していることを確認します。

Windows NT タスクバーの「スタート」メニューから [スタート] ▶ [Panasonic NLE System] ▶ [Editing Control Pad AJ-A77 Setup] を起動します。



Editing Control Padのセットアップ

アプリケーションのバージョンなどの条件チェックが行われ、Edit Pad Set ウィンドウが表示されます。



Editing Control Padのセットアップ

セットアップの方法

AJ-A77 を使用される場合は、

- 「Use Edit Control Panel」のチェックボックスをチェックします。

また、ダイヤルボタンを押さなくても、直接サーチダイヤルを操作して、ダイヤル操作を有効にしたい場合は、

- 「Direct JOG Operation」のチェックボックスをチェックします。

高速転送が可能なVTRを使用して、[PLAY] キーの操作で標準速度の再生を行う場合は、

- 「Play Button Operation for High Speed VTR」の「Play」をチェックします。
選択したデバイスがInternal VTR (50M x2) の場合、2 倍速再生になります。
選択したデバイスがInternal VTR (25M x4) の場合、4 倍速再生になります。

高速転送が可能なVTRを使用して、[PLAY] キーの操作で1倍速プレビューを行う場合は、

- 「x1Preview」をチェックします。

チェックマークを確認し、“OK” をクリックすると、上記の設定が有効になります。

< ノート >

- AJ-A77 に、DVCPRO 25 AJ-DE77 編集アプリケーション Ver 2 用のセットアップディスクが同梱されていますが、ご使用にならないでください。
- AJ-A77 を初めて使用するときや、編集アプリケーションを新規にインストールしたときは、「Use Edit Control Panel」のチェックボックスがOFFになっています。AJ-A77 を使用する前には、必ずチェックボックスをONにしてください。
- AJ-A77 の電源を入れずにNLEシステムを使用する場合や、AJ-A77 をNLEシステムに接続しないでNLEシステムを使用する場合は、必ず、「Edit Control Panel Setup」ウィンドウの [Use Edit Control Panel] のチェックマークを外してください。

Editing Control Padのセットアップ

設定が変更された場合には、「設定が変更されました。」のメッセージが表示されますので、“OK”をクリックします。



なお、設定内容を途中で破棄する場合は、Edit Pad Set ウィンドウで、キャンセルをクリックします。

Editing Control Panelの設定変更

AJ-A77 を使用されている環境で、「Direct JOG Operation」または「Play Button Operation for High Speed VTR」の設定を変更したい場合は、

1. 全てのアプリケーションを終了する。
2. セットアップと同様の手順で、Edit Pad Set ウィンドウを表示する。
3. 「Direct JOG Operation」または「Play Button Operation for High Speed VTR」のチェックを設定し直す。
4. 確認後“OK”をクリックする。

の方法で設定変更をしてください。

全般的な操作

キー操作の基本ルール

- 本誌に示されている [] は、AJ-A77 のキーおよび、ファンクションを表します。
- AJ-A77 では、各キーを単独で押すと、キートップ上面の下段に示されているキーファンクションが実行されます。
- [SHIFT] および [CTRL] は他のキーを押す時に併用する修飾キーです。
[SHIFT] を押しながら、各キーを押すと、キートップ上面の上段に示されているキーファンクションが実行されます。
[CTRL] を押しながら、各キーを押すと、キートップ側面に示されているキーファンクションが実行されます。
- 本誌に示されている白抜き文字のキーは、AJ-A77 に白色で印刷されているキーを表示します。
- 現在のバージョンでは、下記のキー操作がサポートされていません。ご了承ください。

[LOCK] [SEL GRP] [F/TC] [SPLT IN] [SPLT OUT] [SPLT REF] [CUE LST] [MSPLT IN] [MSPLT OUT] [MK SPD] [LD CLIP]
--

準汎用キー

AJ-A77 には、コンピューターキーボードに略準拠したキーが幾つか配置されています。ツールボックスの各アプリケーションで共通で使用することができます。

[TAB], [SHIFT]+[TAB], [CTRL]+[TAB], [CTRL]+[SHIFT]+[TAB],
[0]~[9]、[.]、[+]、[-]、[ENTER]、[ESC]、[DELETE]、[BS]
の各キー操作で、ツールボックスの各アプリケーション内において、キーボードと同じ働きをします。

また、AJ-A77 の [OK] と [Cancel] は、コンピューターキーボードの [Enter] と [ESC] と同じ働きをし、[SHIFT]+[ALL STOP] は、スペースキーと同じ働きをします。

全般的な操作

サブパネルに対するキー操作と注意点

デジタイザー、ピン、シーケンスエディター、トリミングパネル、レコードトゥビデオのメインパネルから開かれるサブパネルに対する、一般的な操作例と注意点について説明します。

AJ-A77の準汎用キーは、コンピューターキーボードのキーとほぼ同じ動作するため、準汎用キーを用いて、サブパネルを操作することができます。

< ノート >

サブパネルによっては、下記の動作と異なる場合があります。その場合は、マウスを用いて、操作を行って下さい。

- 設定タグを選択する

サブパネルの各設定タグを選択するには、[CTRL]+[TAB]] を押し、一つずつ次のタグへ移動して目的のタグを表示します。また、[CTRL]+[SHIFT]+[TAB]] を押し、一つずつ前のタグへ戻ります。

- ダイアログボックスの各設定項目を移動する

サブパネルにある複数の設定項目を移動するには、[TAB]] を押し、
なお、一つ前の設定項目に戻るには、[SHIFT]+[TAB]] を押し、

- サブパネルのチェックボックスをオンにする

サブパネルのチェックボックスをオンにするには、目的のチェックボックスまで [TAB]] または、[SHIFT]+[TAB]] を押し、移動し、[SHIFT]+[ALL STOP] を押し、

オフにするには、再度、[SHIFT]+[ALL STOP] を押し、

- ボタンを押す

サブパネルにあるボタンを選択するには、目的のボタンまで [TAB]] または、[SHIFT]+[TAB]] を押し、移動し、[SHIFT]+[ALL STOP] を押し、

- サブパネルのキャンセルボタンを押す

サブパネルのキャンセルボタンを押すには、[ESC] を押し、

- サブパネルのOKボタンを押す

サブパネルにあるOKボタンを選択するには、OKボタンまで [TAB]] または、[SHIFT]+[TAB]] を押し、移動し、[SHIFT]+[ALL STOP] を押し、

< ノート >

AJ-A77の [OK] を押し、コンピューターキーボードの「ENTER」と同じ動作をします。コンピューターキーボードの「ENTER」操作は、あらかじめパネルで決められたボタン操作を実行したり、フォーカスのあるボタンを押す操作になり、サブパネルのOKボタンが押されないことがあります。

デジタイザーでの操作

デジタイザーの起動

- [INTAKE] を押すと、デジタイザーが起動します。
すでにデジタイザーが起動しているときは、[INTAKE] を押すと、デジタイザーをアクティブにします。

< ノート >

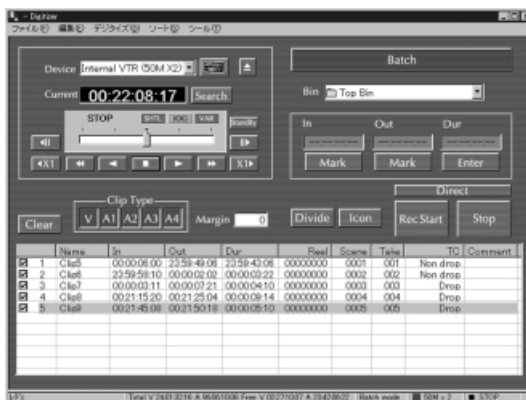
- レコードトゥビデオが起動しているときは、デジタイザーが起動できません。マウス操作でレコードトゥビデオを終了して、[INTAKE] を押しください。
- デジタイザーを終了するときは、マウス操作で行ってください。

デジタイザーには、マニュアルモードとバッチモードの2つのデジタイズモードがあります。

- デジタイズモードを切り替えるには、[SHIFT]+[INTAKE] を押します。
[SHIFT]+[INTAKE] を押す毎に、マニュアルモードとバッチモードが交互に切り替わります。



マニュアルモード



バッチモード

デジタイザーでの操作

VTR デバイスの選択

VTR デバイスを切り替えるには、下記のように操作します。

- Internal VTR を指定するには、[SHIFT]+[V1] を押します。
[SHIFT]+[V1] を押す毎に Internal VTR (50M x2) ▶ Internal VTR (50M x1)
▶ Internal VTR (25M x4) ▶ Internal VTR (25M x1) ▶ と切り替わります。
- External VTR1 を指定するには、[SHIFT]+[V2] を押します。
- External VTR2 を指定するには、[SHIFT]+[V3] を押します。
- AUX を指定するには、[SHIFT]+[V4] を押します。

< ノート >

VTR デバイスが切り替わるには、時間を要します。

VTR デバイスが切り替わるまで、キー操作やダイヤル操作を行わないでください。

デジタイザーでの操作

VTRの再生コントロール

デジタイザーが起動し、ウィンドウがアクティブな状態で、デバイス選択されているVTRに対して、下記の再生制御が可能です。

(AUXが選択されている場合には、制御できません。)

- テープを再生するには、[PLAY]を押します。
デバイス選択されているVTRが高速転送VTR(High Speed VTR)の場合は、「Play Button Operation for High Speed VTR」の設定により、再生キーが変わります。下記の表を参考にしてください。
詳しくは、「6 ページセットアップの方法」を参照してください。

Play Button Operation for High Speed VTR の設定	テープ再生キー
Play	[PLAY] 標準速度の再生 ; x2 倍速再生、x4 倍速再生など
	[SHIFT]+[PLAY] 1 倍速プレビュー
x1 Preview	[SHIFT]+[PLAY] 標準速度の再生 ; x2 倍速再生、x4 倍速再生など
	[PLAY] 1 倍速プレビュー

- テープを停止させるには、[STILL] または [ALL STOP] を押します。
- テープを巻き戻すには、[REW] を押します。
- テープを早送りするには、[FF] を押します。
- テープを逆方向にコマ送りするには、[STEP -] ([SHIFT]+[REW]) を押します。
- テープを正方向にコマ送りするには、[STEP +] ([SHIFT]+[FF]) を押します。
- VTRをスタンバイモードにするには、[STILL] または [ALL STOP] を押した後、[STB OFF] ([CTRL]+[STILL]) を押します。
- カセットテープを取り出すには、[EJECT] ([SHIFT]+[STILL]) を押します。

デジタイザーでの操作

VTR の変速再生コントロール

VTR の変速再生は、ダイヤルボタンとサーチダイヤルで操作できます。

サーチダイヤルを押すごとに、JOG モードと Shuttle/Slow モードに切り替えることができます。

JOG モードでは、サーチダイヤルを回す速度に応じて、テープを走行させることができます。

Shuttle/Slow モードでは、サーチダイヤルの回転角度に応じた速度で、テープを走行させることができます。

Shuttle/Slow の切り替えによって、速度可変範囲を変更できます。

Shuttle では、速度可変範囲が広くなり、Slow では、速度可変範囲は狭くなります。

クリップタイプの設定

デジタイズするクリップタイプを切り替えるには、下記のように操作します。

V (Video)、A1 (CH1 audio)、A2 (CH2 audio)、A3 (CH3 audio)、A4 (CH4 audio) から選択されているクリップのタイプが、デジタイズの対象になります。

- V タイプの選択と非選択を切り替えるには、[CTRL]+[V] を押します。
- A1 タイプの選択と非選択を切り替えるには、[CTRL]+[A1] を押します。
- A2 タイプの選択と非選択を切り替えるには、[CTRL]+[A2] を押します。
- A3 タイプの選択と非選択を切り替えるには、[CTRL]+[A3] を押します。
- A4 タイプの選択と非選択を切り替えるには、[CTRL]+[A4] を押します。

デジタイザーでの操作

クリップの取り込み (マニュアルモード)

準備

- バッチモードになっている場合は、[SHIFT]+[INTAKE] を押してマニュアルモードにします。
- [SHIFT]+[CTRL]+[INTAKE] を押して、DIRECT ボタンを OFF にします。

イン点、アウト点、デュレーションを登録せずに、デジタイズの開始と終了の指示があった区間をデジタイズする場合

1. VTR を再生状態にするため、[PLAY] を押します。
詳しくは、12 ページの「VTR の再生コントロール」を参照してください。
2. デジタイズを開始する位置で、[REC] ([CTRL]+[INTAKE]) または [SHIFT]+[ALL STOP] を押します。
3. デジタイズを終了する位置で、[REC] ([CTRL]+[INTAKE]) または [SHIFT]+[ALL STOP] を押します。
デジタイズを終了して VTR も同時に停止する場合には、[ALL STOP] を押します。

イン点のみを登録し、イン点からデジタイズ終了の指示を与えるまでの区間をデジタイズする場合は

1. 取り込みを開始する位置で [MARK IN] を押します。
2. イン点を確定してログリストに追加登録するために、[OK] を押します。
3. [REC] ([CTRL]+[INTAKE]) または [SHIFT]+[ALL STOP] を押します。
イン点にプリロールして、デジタイズが開始されます。
4. デジタイズを終了する位置で、[REC] ([CTRL]+[INTAKE]) または [SHIFT]+[ALL STOP] を押します。
デジタイズを終了して VTR も同時に停止する場合には、[ALL STOP] を押します。

デジタイザーでの操作

イン点、アウト点を登録し、指定したイン点からアウト点までの区間をデジタイズする場合

1. 取り込みを開始する位置で [MARK IN] を押し、取り込みを終了する位置で [MARK OUT] を押します。
2. イン点とアウト点を確定してログリストに追加登録するために、[OK] を押します。
3. [REC] ([CTRL]+[INTAKE]) または [SHIFT]+[ALL STOP] を押します。
イン点にプリロールした後デジタイズを開始し、アウト点でデジタイズを終了します。

< ノート >

- ログリストのイン点とアウト点の登録を取り消すには、[OK] を 1 回または 2 回押します。
マーク点設定フィールドにタイムコードが表示されていないときは、[OK] を 1 回押します。
マーク点設定フィールドにタイムコードが表示されているときは、[OK] を 2 回押します。
- 登録されたログリストのイン点・アウト点・デュレーションをタイムコードで指定する場合は、下記の操作を行います。
 1. [TAB] または [SHIFT]+[TAB] を用いてログリストを選択します。
 2. [SHIFT]+[OK] を押し、デジタイズログパネルを開きます。
 3. [TAB] または [SHIFT]+[TAB] を用いてイン点・アウト点・デュレーション設定フィールドを選択します。
 4. 数字キーを用いてタイムコードを入力します。
 5. [OK] を押します。設定が確定し、パネルが閉じます。
[CANCEL] を押すと、設定が破棄され、パネルが閉じます。
- DIRECT ボタンが ON の状態でデジタイズすると、シーケンスエディターの編集モードに応じたダイレクトデジタイズが実行されます。
シーケンスエディターがインサートモードのときは、インサート編集でダイレクトデジタイズが実行されます。
シーケンスエディターがリプレースモードのときは、リプレース編集でダイレクトデジタイズが実行されます。

デジタイザーでの操作

クリップの取り込み（バッチモード）

準備

- マニュアルモードになっている場合は、[SHIFT]+[INTAKE] を押してバッチモードにします。
- [SHIFT]+[CTRL]+[INTAKE] を押して DIRECT ボタンを OFF にします。

バッチモードでデジタイズする

1. 取り込みを開始する位置で [MARK IN] を押し、取り込みを終了する位置で [MARK OUT] を押します。
2. イン点とアウト点を確定してログリストに追加登録するために、[OK] を押します。
3. 必要に応じて 1 と 2 の操作を繰り返して、ログリストを作成します。
4. [REC] ([CTRL]+[INTAKE]) または [SHIFT]+[ALL STOP] を押して、入力されているデジタイズログを順にデジタイズします。

< ノート >

- 登録されたログリストを削除するには、下記の操作を行います。
 1. [TAB] または、[SHIFT]+[TAB] を用いてログリストに移ります。
 2. [] ([SHIFT]+[8]) や [] ([SHIFT]+[2]) を用いて削除するログを選択します。
 3. [DELETE] ([SHIFT]+[DEL R]) を押します。
- 登録されたログリストのイン点・アウト点・デュレーションをタイムコードで指定する場合は、下記の操作を行います。
 1. [TAB] または [SHIFT]+[TAB] を用いてログリストを選択します。
 2. [] ([SHIFT]+[8]) や [] ([SHIFT]+[2]) を用いてログを選択します。
 3. [SHIFT]+[OK] を押し、デジタイズログパネルを開きます。
 4. [TAB] または [SHIFT]+[TAB] を用いてイン点・アウト点・デュレーション設定フィールドを選択します。
 5. 数字キーを用いてタイムコードを入力します。
 6. [OK] を押します。設定が確定し、パネルが閉じます。
[CANCEL] を押すと、設定が破棄され、パネルが閉じます。
- DIRECT ボタンが ON の状態でデジタイズすると、シーケンスエディターの編集モードに応じたダイレクトデジタイズが実行されます。
シーケンスエディターがインサートモードのときは、インサート編集でダイレクトデジタイズが実行されます。
シーケンスエディターがリブレースモードのときは、リブレース編集でダイレクトデジタイズが実行されます。

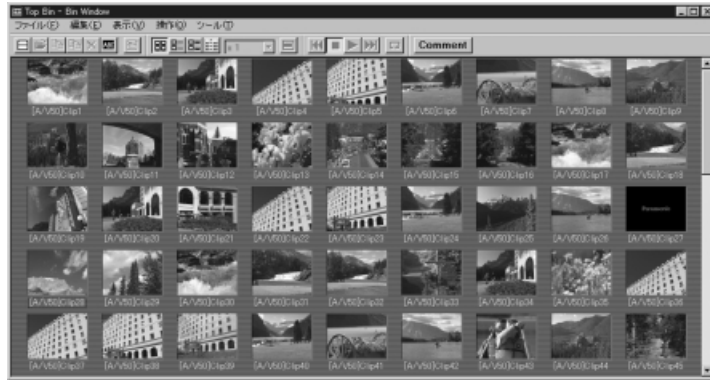
デジタイザーでの操作

取り込み中のクリップ分割とアイコン

- デジタイズ中に [MARK IN] を押すと、取り込みを継続した状態で、取り込み中のクリップを分割することができます。
- デジタイズ中に [MK CUE] を押すと、押したときの画像がクリップのアイコンになります。
[MK CUE] を押さなければ、クリップの取り込みを開始したときの画像がクリップのアイコンになります。

ビンでの操作

ビンでのクリップ再生



ピンウィンドウがアクティブなときに、選択されているクリップを再生することができます。

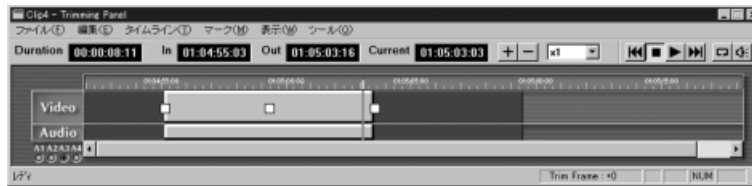
- [PLAY] を押すと、選択されているクリップを再生します。
- [STILL] または [ALL STOP] を押すと、再生を停止します。
- [SHIFT]+[ALL STOP] を押すと、選択されているクリップを再生します。
- 再生中に [SHIFT]+[ALL STOP] を押すと、再生を停止します。

再生するクリップの選択は、次のように変えることができます。

- [] ([SHIFT]+[2]) を押すと、クリップの選択を下のクリップに移します。
- [] ([SHIFT]+[8]) を押すと、クリップの選択を上クリップに移します。
- [] ([SHIFT]+[4]) を押すと、クリップの選択を左のクリップに移します。
- [] ([SHIFT]+[6]) を押すと、クリップの選択を右のクリップに移します。

トリミングパネルでの操作

トリミングパネルの起動と終了



- ビンウィンドウでクリップを選択し、[ENTER] または [OK] を押すと、トリミングパネルが開き、タイムライン上にクリップがロードされます。
- トリミングパネルで [] ([SHIFT]+[2]), [] ([SHIFT]+[8]), [] ([SHIFT]+[4]), [] ([SHIFT]+[6]) を押すと、トリミングパネルのクリップを、同じピンウィンドウ内のクリップに切り替えます。
- トリミングパネルが起動しているときに、[ENTER] または [OK] を押すとトリミングパネルが終了します。
トリミングパネルのタイムライン上でクリップに変更を加えた場合は、変更した内容の保存を確認するメッセージが表示されます。

トリミングパネルでの操作

トリミングパネルでのクリップ再生

トリミングパネルのウィンドウがアクティブな状態で、トリミングパネルにロードされているクリップを再生制御することが可能です。

トリミングパネルでは、ロードされているクリップについて、カレントタイムバーの位置に応じた画が再生されます。

- [PLAY] を押すと、カレントタイムバー位置からクリップを再生します。
カレントタイムバーが再生に応じて移動します。
- [STILL] または [ALL STOP] を押すと、カレントタイムバー位置でクリップ再生を停止します。
- [STILL]+[ALL STOP] を押すと、カレントタイムバー位置からクリップを再生しません。
- 再生中に [STILL]+[ALL STOP] を押すと、クリップ再生を停止します。
- [STEP +] ([SHIFT]+[FF]) を押すと、カレントタイムバー位置が1フレームだけ正方向に移動し、[STEP -] ([SHIFT]+[REW]) を押すと、カレントタイムバー位置が1フレームだけ逆方向に移動します。
- [+] を押すと、正方向に1フレーム単位でジャンプし、[-] を押すと、逆方向に1フレーム単位でジャンプします。
- [SHIFT]+[+] を押すと、正方向に10フレーム単位でジャンプし、[SHIFT]+[-] を押すと、逆方向に10フレーム単位でジャンプします。
- サーチダイヤル操作でカレントタイムバー位置を操るには、ダイヤルボタンを押し、サーチダイヤルを操作します。
サーチダイヤルを押すごとに、JOGモードと Shuttle/Slow モードに切り替えることができます。
JOGモードでは、サーチダイヤルを回す速度に応じて、カレントタイムバーの位置を操作することができます。
Shuttle/Slowモードでは、サーチダイヤルの回転角度に応じて、カレントタイムバーの位置を操作することができます。
Shuttle/Slowの切り替えによって、速度可変範囲の変更ができます。
Shuttleでは、速度可変範囲が広くなり、Slowでは、速度可変範囲は狭くなります。

トリミングパネルでの操作

- [IN] [GOTO] と続けて押すと、設定されているイン点にカレントタイムバーがジャンプします。
- [OUT] [GOTO] と続けて押すと、設定されているアウト点にカレントタイムバーがジャンプします。
- [START]([SHIFT]+[IN]) [GOTO] と続けて押すと、素材クリップのイン点にカレントタイムバーがジャンプします。
- [END]([SHIFT]+[OUT]) [GOTO] と続けて押すと、素材クリップのアウト点にカレントタイムバーがジャンプします。

数値キーを押すと、カレント (Current) ウィンドウが表示されますので、

- 数値キーでジャンプさせたい量のタイムコード値を入力した後 [+] を押すと、入力した数値分正方向にジャンプします。
- 数値キーでジャンプさせたい量のタイムコード値を入力した後 [-] を押すと、入力した数値分逆方向にジャンプします。
- タイムコード値を数値キーで設定し [ENTER] を押すと、設定されたタイムコードの位置にジャンプします。

トリミングパネルでの操作

イン点/アウト点の設定と解除

トリミングパネルにロードされているクリップのイン点/アウト点を、下記の手順で変更することができます。

カレントタイムバー位置を決定し、

- [MARK IN] を押すと、カレントタイムバー位置にイン点が設定されます。
- [MARK OUT] を押すと、カレントタイムバー位置にアウト点が設定されます。
- [REMOVE IN] ([SHIFT]+[MARK IN]) を押すと、設定されているイン点を解除します。
- [REMOVE OUT] ([SHIFT]+[MARK OUT]) を押すと、設定されているアウト点を解除します。

クリップのトリム操作

[MARK IN]/[MARK OUT] によるイン点/アウト点設定の他に、トリム操作を行ってクリップのイン点やアウト点を設定することができます。

1. トリムしたいポイントのグリップを下記の方法で選択します。
 - [CTRL]+[MARK IN] または [CTRL]+[4] を押すと、イン点グリップが選択されます。
 - [CTRL]+[MARK OUT] または [CTRL]+[6] を押すと、アウト点グリップが選択されます。
 - [CTRL]+[5] を押すと、クリップのセンターグリップが選択されます。
センターグリップが選択されている場合は、イン点とアウト点が同時にトリムされます。
2. 下記のいずれかの方法でトリムします。
 - [+] を押すと、正方向に 1 フレームずつトリムし、[-] を押すと、逆方向に 1 フレームずつトリムします。
 - [STEP +] ([SHIFT]+[FF]) を押すと、正方向に 1 フレームずつトリムし、[STEP -] ([SHIFT]+[REW]) を押すと、逆方向に 1 フレームずつトリムします。
 - [SHIFT]+[+] を押すと、正方向に 10 フレームずつトリムし、[SHIFT]+[-] を押すと、逆方向に 10 フレームずつトリムします。
 - 数値キーで変更したい量のタイムコード値を入力した後 [+] を押すと、入力した数値分正方向にトリムします。
 - 数値キーで変更したい量のタイムコード値を入力した後 [-] を押すと、入力した数値分逆方向にトリムします。
 - サーチダイヤルでトリムします。
3. [OK] または [ENTER] を押し、トリムを確定します。
4. [CANCEL] や [ESC] または [CTRL]+[0] を押し、トリムを終了します。

トリミングパネルでの操作

クリップ操作の UNDO と REDO

イン点/アウト点の設定やトリム操作を、実行前の状態に戻したり、再度実行することができます。

- [UNDO] を押すと、実行した操作を実行前の状態に戻します。(最大 32 回)
- [REDO] を押すと、[UNDO] で戻した操作を再度実行します。

タイムラインの表示倍率の変更とスクロール

トリミングパネルのタイムラインの表示倍率を設定することができます。

- [ZmUp] ([SHIFT]+[7]) を押すと、タイムラインの表示を拡大します。
- [ZmDn] ([SHIFT]+[1]) を押すと、タイムラインの表示を縮小します。
- [SHIFT]+[0] を押すと、素材ファイル全体が表示できるように倍率を変更します。再度、[SHIFT]+[0] を押すと、元の表示倍率に戻ります。

トリミングパネルのタイムラインをスクロールすることができます。

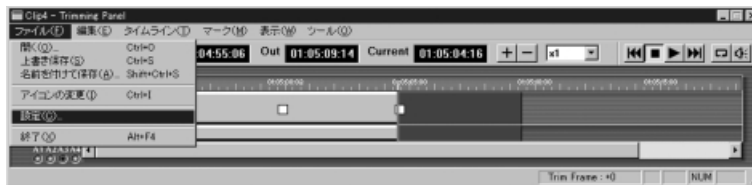
- [PgUp] ([SHIFT]+[9]) を押すと、タイムラインを右にスクロールします。
- [PgDn] ([SHIFT]+[3]) を押すと、タイムラインを左にスクロールします。

トリミングパネルでの操作

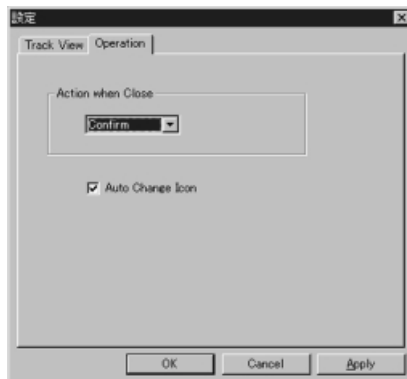
トリミングパネルの設定について

トリミングパネルの設定で、トリミングパネルの動作に関する設定を変更することができます。

1. トリミングパネルのメニューより「ファイル」をクリックし、「設定」を選択します。



2. Operation タグを開き、設定内容を変更します。



3. OK ボタンをマウスでクリックします。

トリミングパネルでの操作

ここでは、Editing Control Padの操作に関係が深いAction When CloseとAuto Change Iconの設定について説明します。

Action when closeの設定

トリミングパネルに対して、イン点とアウト点の変更やアイコンの変更が施された後、別のクリップをロードする場合の動作に関して、初期設定状態では「このデータは保存されていません。保存しますか?」という確認メッセージが表示されます。

毎回Yesを選択してデータを保存する場合や、毎回Noを選択しデータを保存しない場合は、コンボボックスで、それぞれAuto apply、Auto cancelを選択すると、確認メッセージが表示されずに操作を簡略化することができます。

Confirm (初期設定時)

トリミングパネルを終了するときや、別のクリップのトリミングパネルを開こうとしたときに、トリミングパネルで編集中のデータを保存するか否かの確認メッセージを表示するように設定されます。

Auto apply

トリミングパネルを終了するときや、別のクリップのトリミングパネルを開こうとしたときに、トリミングパネルで編集中のデータを自動的に保存するよう設定されます。確認メッセージは表示されません。

Auto cancel

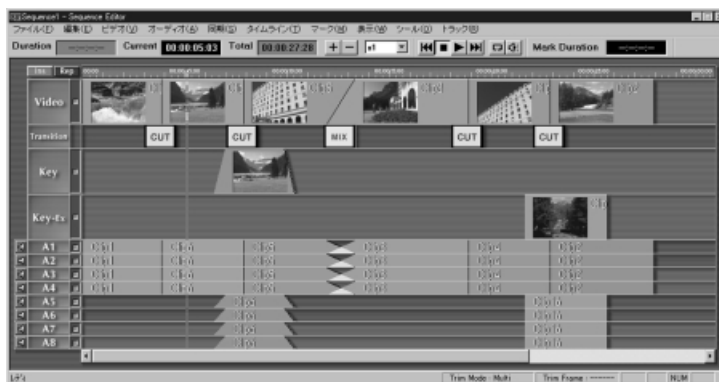
トリミングパネルを終了するときや、別のクリップのトリミングパネルを開こうとしたときに、トリミングパネルで編集中のデータを保存せず、破棄するように設定されます。確認メッセージは表示されません。

Auto Change Iconの設定

Auto Change Iconにチェックマークを付けると、データの保存時にクリップのアイコンをイン点の画像に自動的に更新されます。

シーケンスエディターでの操作

シーケンスエディターの起動



- [CREATE] または [SEQ] を押すと、シーケンスエディターが起動します。すでにシーケンスエディターが起動しているときに、[CREATE] または [SEQ] を押すと、最後に操作を行ったシーケンスエディターがアクティブになります。
- ビンウィンドウでシーケンスクリップを選択し、[OK] または [ENTER] を押すと、シーケンスエディターが起動し、タイムライン上にシーケンスクリップが表示されます。

シーケンスエディターでの操作

シーケンス再生

シーケンスエディターがアクティブな状態で、タイムラインに作成されているシーケンスを再生制御することが可能です。

シーケンスエディターでは、作成されているシーケンスについて、カレントタイムバーの位置に応じた画が再生されます。

- [PLAY] を押すと、カレントタイムバー位置から再生します。
カレントタイムバーが再生に応じて移動します。
- [SHIFT]+[PLAY] を押すと、設定されているマークイン点からマークアウト点まで再生します。
- [SHIFT]+[ALL STOP] を押すと、カレントタイムバーの位置から再生します。
- 再生中に [SHIFT]+[ALL STOP] を押すと、再生を停止します。
- [STILL] または [ALL STOP] を押すと、カレントタイムバー位置で再生を停止します。
- [STEP +] ([SHIFT]+[FF]) を押すと、カレントタイムバー位置が1フレームだけ正方向に移動し、[STEP -] ([SHIFT]+[REW]) を押すと、カレントタイムバー位置が1フレームだけ逆方向に移動します。
- [FF] を押すと、カレントタイムバーが正方向に一番近いビデオクリップのイン点にジャンプし、[REW] を押すと、カレントタイムバーが逆方向に一番近いビデオクリップのイン点にジャンプします。
カレントタイムバーの移動先のクリップは選択状態になります。
- サーチダイヤル操作でカレントタイムバー位置を操作するには、ダイヤルボタンを押し、サーチダイヤルを操作します。
サーチダイヤルを押すごとに、JOGモードと Shuttle/Slow モードに切り替えることができます。
JOGモードでは、サーチダイヤルを回す速度に応じて、カレントタイムバーの位置を操作することができます。
Shuttle/Slowモードでは、サーチダイヤルの回転角度に応じて、カレントタイムバーの位置を操作することができます。
Shuttle/Slowの切り替えによって、速度可変範囲の変更ができます。
Shuttleでは、速度可変範囲が広くなり、Slowでは、速度可変範囲は狭くなります。

シーケンスエディターでの操作

- Snap 点に連続してジャンプさせる場合は、JOG モードで、[SHIFT] を押しながらサーチダイヤルを操作します。

Snap 点とは、各クリップのイン点、センター点、イン点のトランジション開始点、イン点のトランジション終了点、マークイン点、マークアウト点のことです。なお、Snap 点の対象となるトラックは、シーケンスエディターウィンドウのメニューより「ファイル」をクリックし、「設定」を選択して、Snap To タグの Snap target track で設定することができます。

- [IN] [GOTO] と続けて押すと、カレントタイムバーは、設定されているマークイン点にジャンプします
- [OUT] [GOTO] と続けて押すと、カレントタイムバーは、設定されているマークアウト点にジャンプします。
- [START]([SHIFT]+[IN]) [GOTO] と続けて押すと、カレントタイムバーがタイムラインの開始点にジャンプします。
- [END]([SHIFT]+[OUT]) [GOTO] と続けて押すと、カレントタイムバーがタイムライン上の最終クリップ終了点にジャンプします。

また、数値キー群によって、カレントタイムバー位置をジャンプさせることができます。

- [+] を押すと、正方向に 1 フレーム単位でジャンプします。
- [SHIFT]+[+] を押すと、正方向に 10 フレーム単位でジャンプします。
- [-] を押すと、逆方向に 1 フレーム単位でジャンプします。
- [SHIFT]+[-] を押すと、逆方向に 10 フレーム単位でジャンプします。

数値キーを押すと、カレント (Current) ウィンドウが表示されますので、

- 数値キーでジャンプさせたい量のタイムコード値を入力した後 [+] を押すと、入力した数値分正方向にジャンプします。
- 数値キーでジャンプさせたい量のタイムコード値を入力した後 [-] を押すと、入力した数値分逆方向にジャンプします。
- タイムコード値を数値キーで設定し [ENTER] を押すと、設定されたタイムコードの位置にジャンプします。

シーケンスエディターでの操作

マークイン/マークアウトの設定と解除

タイムラインにマークイン点/マークアウト点を、下記の手順で設定・解除することができます。

- [MARK IN]を押すと、カレントタイムバー位置にマークイン点が設定されます。
- [MARK OUT]を押すと、カレントタイムバー位置にマークアウト点が設定されます。
- [REMOVE IN] ([SHIFT]+[MARK IN]) を押すと、設定されているマークイン点を解除します。
- [REMOVE OUT] ([SHIFT]+[MARK OUT]) を押すと、設定されているマークアウト点を解除します。
- クリップが選択されている状態で、[MK CLIP] ([CTRL]+[MK CUE]) を押すと、クリップのイン/アウト位置にマークイン点/マークアウト点を設定します。

タイムラインの表示倍率の変更とスクロール

シーケンスタイムラインの表示倍率を設定することができます。

- [ZmUp] ([SHIFT]+[7]) を押すと、タイムラインの表示を拡大します。
- [ZmDn] ([SHIFT]+[1]) を押すと、タイムラインの表示を縮小します。
- [SHIFT]+[0] を押すと、シーケンスに存在する全てのクリップを表示できるように、倍率を自動的に変更します。

再度、[SHIFT]+[0] を押すと、元の表示倍率に戻ります。

シーケンスタイムラインをスクロールすることができます。

- [PgUp] ([SHIFT]+[9]) を押すと、タイムラインを右にスクロールします。
- [PgDn] ([SHIFT]+[3]) を押すと、タイムラインを左にスクロールします。

シーケンスエディターでの操作

クリップの選択



タイムラインに並べられたクリップをトリムしたり、並べ替えたりするためには、対象となるクリップを選択する必要があります。

選択したいクリップ上にカレントタイムバーを移動します。

クリップが未選択の状態では、

- [] ([SHIFT]+[2]) を押すと、カレントタイムバー位置で、タイムラインに表示されている最上段のトラック上のクリップが選択状態になります。
- [] ([SHIFT]+[8]) を押すと、カレントタイムバー位置で、タイムラインに表示されている最下段のトラック上のクリップが選択状態になります。

クリップが選択されている状態で、

- [] ([SHIFT]+[2]) を押すごとに、カレントタイムバー位置で、選択状態を下段のトラック上のクリップへと移動します。
- [] ([SHIFT]+[8]) を押すごとに、カレントタイムバー位置で、選択状態を上段のトラック上のクリップへと移動します。
- [] ([SHIFT]+[4]) を押すごとに、クリップの選択状態が、同一トラック上の前方向のクリップへ移ります。
- [] ([SHIFT]+[6]) を押すごとに、クリップの選択状態が、同一トラック上の後ろ方向のクリップへ移ります。

シーケンスエディターでの操作

ビデオトラック、キートラック、オーディオトラック (A1 ~ A4) 上にあるクリップとトランジションアイコンについては、ダイレクトに選択することができます。

選択したいクリップ上にカレントタイムバーを移動し、下記の操作を行います。クリップの選択を追加する場合は、[SHIFT] を押しながら下記の操作を行ってください。指定したクリップがすでに選択されているときは、クリップの選択が解除されます。

- [SEL] ([CTRL]+[V]) を押すと、ビデオトラック上のクリップが選択できます。
- [SEL] ([CTRL]+[A1]) を押すと、オーディオトラック A1 上のクリップが選択できます。
- [SEL] ([CTRL]+[A2]) を押すと、オーディオトラック A2 上のクリップが選択できます。
- [SEL] ([CTRL]+[A3]) を押すと、オーディオトラック A3 上のクリップが選択できます。
- [SEL] ([CTRL]+[A4]) を押すと、オーディオトラック A4 上のクリップが選択できます。
- [SEL] ([CTRL]+[KEY]) を押すと、キートラック上のクリップが選択できます。
- [TRANS] ([CTRL]+[PREVIEW]) を押すと、トランジションアイコンが選択できます。

クリップの削除

1. 編集に応じて [CTRL]+[CREATE] を押し、インサートモードとリプレースモードを切り替えます。
2. シーケンスエディター上の対象となるクリップを選択状態にして、[DELETE] ([SHIFT]+[DEL R]) を押します。

< ノート >

- ビデオクリップを削除した場合、リンクされているオーディオクリップも削除されません。
- トランジションアイコンは、分割の対象にはなりません。

シーケンスエディターでの操作

クリップの移動と複写



シーケンスエディター上のクリップを移動するには、

1. 移動するクリップを選択状態にします。
ビデオクリップを選択した場合は、リンクされているオーディオクリップも移動の対象になります。
2. 編集に応じて [CTRL]+[CREATE] を押し、インサートモードとリプレースモードを切り替えます。
3. [CUT] ([CTRL]+[EXCHG]) を押します。
4. クリップを移動する位置にカレントタイムバーを移動します。
5. 編集に応じて [CTRL]+[CREATE] を押し、インサートモードとリプレースモードを切り替えます。
6. [PASTE] ([CTRL]+[REMOVE]) を押します。
カレントタイムバー位置に、クリップのイン点が吸着したラバーバンドクリップが表示されます。
インサートモードでビデオクリップを移動する場合は、ビデオトラック上のクリップ間の位置に、クリップのイン点が吸着したラバーバンドクリップが表示されます。
7. [OK] または [ENTER] を押すと、ペースト位置が確定します。

< ノート >

異なるトラックへのクリップの移動は、マウス操作でクリップを移動先のトラックヘッドラッグアンドドロップしてください。

シーケンスエディターでの操作

シーケンスエディター上のクリップを複写するには、

1. 複写するクリップを選択状態にします。
ビデオクリップを選択した場合は、リンクされているオーディオクリップも移動の対象になります。
2. [COPY] ([CTRL]+[DELETE]) を押します。
3. 編集に応じて [CTRL]+[CREATE] を押し、インサートモードとリプレースモードを切り替えます。
4. [PASTE] ([CTRL]+[REMOVE]) を押します。
カレントタイムバー位置にイン点が吸着したラバーバンドクリップが表示されます。
インサートモードでビデオクリップを複写する場合は、ビデオトラック上のクリップ間の位置にイン点が吸着したラバーバンドクリップが表示されます。
5. [OK] または [ENTER] を押すと、ペースト位置が確定します。

< ノート >

異なるトラックへのクリップの複写はできません。

マウス操作でクリップを移動先のトラックへドラッグアンドドロップしてください。

シーケンスエディターでの操作

クリップのトリム操作



クリップのイン点とアウト点をトリム操作し、クリップのデュレーション（長さ）を調整することができます。

1. 編集モードを必要に応じて設定します。

[CTRL]+[CREATE] を押す毎に、インサートモードとリブレースモードが交互に切り替わります。

インサートモードでは、トリムの対象になっているクリップだけがトリムされます。リブレースモードでは、トリムの対象になっているクリップと隣接するクリップも同時にトリムされます。

2. トリムするクリップのグリップを下記の方法で選択します。

- [CTRL]+[MARK IN] を押すと、カレントタイムバー位置にあるクリップのうち、最上段のトラック上のクリップが選択状態になり、イン点グリップが選択されます。

再度 [CTRL]+[MARK IN] を押すと、現在グリップが選択されているクリップの1つ下段にあるクリップが選択状態になり、イン点グリップが選択されます。

- [SHIFT]+[CTRL]+[MARK IN] を押すとカレントタイムバー位置にあるクリップのうち、最下段のトラック上のクリップが選択状態になり、イン点グリップが選択されます。

再度 [SHIFT]+[CTRL]+[MARK IN] を押すと、現在グリップが選択されているクリップの1つ上段にあるクリップが選択状態になり、イン点グリップが選択されます。

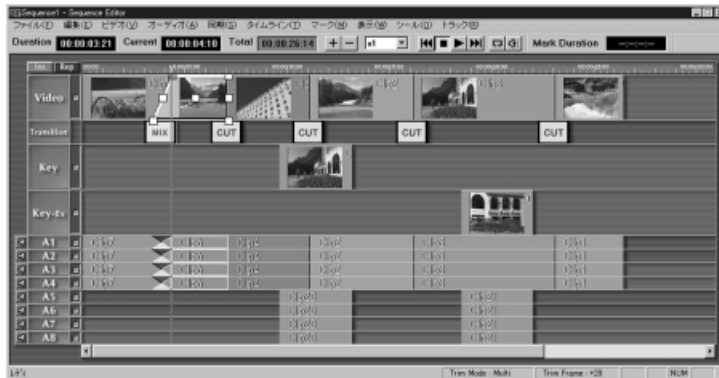
- [CTRL]+[MARK OUT] を押すとカレントタイムバー位置にあるクリップのうち、最上段のトラック上のクリップが選択状態になり、アウト点グリップが選択されます。

再度 [CTRL]+[MARK OUT] を押すと、現在グリップが選択されているクリップの1つ下段にあるクリップが選択状態になり、アウト点グリップが選択されます。

シーケンスエディターでの操作

- [SHIFT]+[CTRL]+[MARK OUT] を押すとカレントタイムバー位置にあるクリップのうち、最下段のトラック上のクリップが選択状態になり、アウト点グリップが選択されます。
さらに [SHIFT]+[CTRL]+[MARK OUT] を押すと、現在グリップが選択されているクリップの1つ上段にあるクリップが選択状態になり、アウト点グリップが選択されます。
 - トリムの対象となるクリップを選択状態にし、下記の操作でクリップのグリップを選択します。
[CTRL]+[4] を押すと、イン点グリップが選択されます。
[CTRL]+[6] を押すと、アウト点グリップが選択されます。
[CTRL]+[5] を押すと、センターグリップが選択されます。
(センターグリップが選択されている場合は、イン点とアウト点が同時にトリムされます。)
3. トリムモードを必要に応じて設定します。
- [CTRL]+[ALL STOP] を押す毎に、各トリムモードが順番に設定されます。
 - [M-TRIM] ([SHIFT]+[DELETE]) を押すと、マルチトリムモードに設定します。
 - [I-TRIM] ([SHIFT]+[REMOVE]) を押すと、トリムの対象になっているクリップがビデオクリップの場合は、A/V スプリットトリムモードに設定します。
トリムの対象になっているクリップがオーディオクリップの場合は、A/V スプリットトリムモードとシングルトリムモードに交互に設定されます。
4. 下記のいずれかの方法でトリムします。
- [+] を押すと、正方向に1フレームずつトリムし、[-] を押すと、逆方向に1フレームずつトリムします。
 - [STEP +] ([SHIFT]+[FF]) を押すと、正方向に1フレームずつトリムし、[STEP -] ([SHIFT]+[REW]) を押すと、逆方向に1フレームずつトリムします。
 - [SHIFT]+[+] を押すと、正方向に10フレームずつトリムし、[SHIFT]+[-] を押すと、逆方向に10フレームずつトリムします。
 - 数値キーで変更したい量のタイムコード値を入力した後 [+] を押すと、入力した数値分正方向にトリムします。
 - 数値キーで変更したい量のタイムコード値を入力した後 [-] を押すと、入力した数値分逆方向にトリムします。
 - サーチダイヤルでトリムします。
- トリムの操作を行っているときに [CTRL]+[ALL STOP] を押してトリムモードを切り替えた場合は、一時的にトリムモードが変更されます。次のトリム操作を行うと、元のトリムモードに設定されます。
5. [OK] または [ENTER] を押し、トリムを確定します。
6. トリム結果をプレビューします。
トリムが確定した状態で [PREVIEW] を押すと、トリムしている部分をプレビューします。
7. [CANCEL] や [ESC] または [CTRL]+[0] を押し、トリムを終了します。

シーケンスエディターでの操作



クリップのトランジション開始点と終了点をトリム操作し、トランジション区間の長さを調整することができます。

1. トリムするクリップのグリッップを下記の方法で選択します。

トリムの対象となるクリップを選択状態にし、下記の操作でクリップのグリッップを選択します。

- [CTRL]+[1] を押すと、イン点のトランジション開始点グリッップが選択されます。
- [CTRL]+[7] を押すと、イン点のトランジション終了点グリッップが選択されます。
- [CTRL]+[3] を押すと、アウト点のトランジション開始点グリッップが選択されま
す。
- [CTRL]+[9] を押すと、アウト点のトランジション終了点グリッップが選択されま
す。

35 ページの項目 4 から 7 の操作を同様にいき、トリムを終了します。

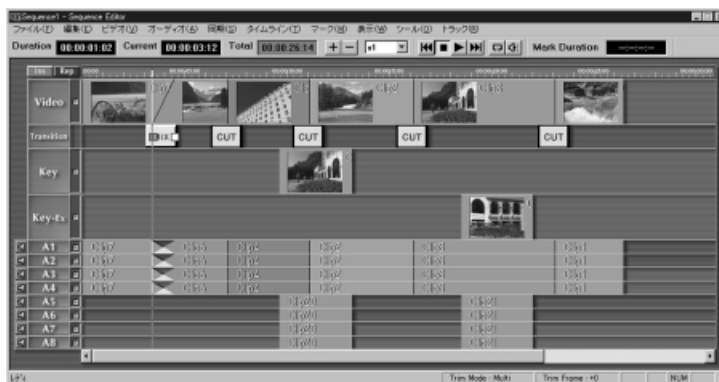
シーケンスエディターでの操作

< ノート >

- クリップのイン点やアウト点のトリム操作では、リプレースモードでトリムを行った場合、隣接するクリップに素材マージンがなくなった場合、マツクリップ（ビデオトラック）やブランク（ビデオトラック以外）になります。
- 各トリムモードにおけるトリムの対象になるクリップは次のようになります。
 - マルチトリムモード：
 - グリップが表示されているクリップと、そのクリップにリンクされているクリップがトリムの対象になります。
 - A/V スプリットトリムモード：
 - ビデオクリップの場合、グリップが表示されているクリップがトリムの対象になります。
 - オーディオクリップの場合、グリップが表示されているクリップとそのクリップにリンクされているオーディオクリップがトリムの対象になります。
 - シングルトリムモード（オーディオクリップ時のみ）：
 - グリップが表示されているオーディオクリップだけがトリムの対象になります。
- 現在のトリムモードは、シーケンスエディターウィンドウのステータスバー内のトリムモード表示フィールドに表示されます。

シーケンスエディターでの操作

トランジションアイコンのトリム操作



トランジションアイコンをトリム操作し、ビデオクリップのトランジション区間の長さや位置を、調整することができます。

1. 編集モードを必要に応じて設定します。

[CTRL]+[CREATE] を押す毎に、インサートモードとリプレースモードが交互に切り替わります。

インサートモードでは、トランジション開始点を基準として、トランジション区間の長さを変更します。タイムライン全体の長さも変化します。

リプレースモードでは、トランジション区間の中心を基準としてトランジション区間の長さを変更します。タイムライン全体の長さは変化しません。

2. トリムするトランジションアイコンのグリップを、下記のいずれかの方法で選択します。

- カレントタイムバーをトランジションアイコン上に移動し、[CTRL]+[MARK IN] を数回押して、トランジションアイコンのイン点グリップを選択します。
- カレントタイムバーをトランジションアイコン上に移動し、[CTRL]+[MARK OUT] を数回押して、トランジションアイコンのアウト点グリップを選択します。
- トリムの対象となるトランジションアイコンを選択状態にし、下記の操作でトランジションアイコンのグリップを選択します。

[CTRL]+[4] を押すと、イン点グリップが選択されます。

[CTRL]+[6] を押すと、アウト点グリップが選択されます。

シーケンスエディターでの操作

3. 下記のいずれかの方法でトリムします。
 - [+] を押すと、正方向に 1 フレームずつトリムし、[-] を押すと、逆方向に 1 フレームずつトリムします。
 - [STEP +] ([SHIFT]+[FF]) を押すと、正方向に 1 フレームずつトリムし、[STEP -] ([SHIFT]+[REW]) を押すと、逆方向に 1 フレームずつトリムします。
 - [SHIFT]+[+] を押すと、正方向に 10 フレームずつトリムし、[SHIFT]+[-] を押すと、逆方向に 10 フレームずつトリムします。
 - 数値キーで変更したい量のタイムコード値を入力した後 [+] を押すと、入力した数値分正方向にトリムします。
 - 数値キーで変更したい量のタイムコード値を入力した後 [-] を押すと、入力した数値分逆方向にトリムします。
 - サーチダイヤルでトリムします。
4. [OK] または [ENTER] を押し、トリムを確定します。
5. トリム結果をプレビューします。

トリムが確定した状態で [PREVIEW] を押すと、トリムしている部分をプレビューします。
6. [CANCEL] や [ESC] または [CTRL]+[0] を押し、トリムを終了します。

シーケンスエディターでの操作

クリップの分割操作

シーケンスエディター上のクリップを分割するには、

1. 分割したい位置にカレントタイムバーを移動します。
2. 分割したいクリップを選択します。
3. [DIV CUR] ([CTRL]+[REDO]) を押すと、カレントタイムバー位置で選択されているクリップを分割します。
ビデオクリップを選択した場合、リンクされているオーディオクリップも分割の対象になります。

マークイン点でクリップを分割する場合は、

1. 分割するクリップが存在するトラックをアクティブにします。
トラックの選択方法については、53 ページ「編集実行トラックの指定」を参照してください。
2. [DIV IN] ([CTRL]+[DEL L]) を押すと、選択されているトラック上のクリップをマークイン点で分割します。

マークアウト点でクリップを分割する場合は、

1. 分割するクリップが存在するトラックをアクティブにします。
トラックの選択方法については、53 ページ「編集実行トラックの指定」を参照してください。
2. [DIV OUT] ([CTRL]+[DEL R]) を押すと、選択されているトラック上のクリップをマークアウト点で分割します。

編集操作の UNDO と REDO

編集実行を実行前に戻したり、再実行したりすることができます。

- [UNDO] を押すと、実行した編集操作をキャンセルし、実行前の状態に戻します。
(最大 32 回まで)
- [REDO] を押すと、[UNDO] で戻した操作を、再度実行します。

シーケンスエディターでの操作

リンク操作とリンクの解除

シーケンスエディター上で選択しているクリップに他のクリップをリンクするには、

1. シーケンスエディター上のクリップにリンクする他のクリップを選択します。
2. LINK ([SHIFT]+[REDO]) を押すと、選択したクリップをシーケンスエディター上のクリップにリンクします。

シーケンスエディター上のクリップとのリンクを解除するには、

1. リンクを解除するクリップを選択します。
2. UNLINK ([SHIFT]+[UNDO]) を押すと、シーケンスエディター上のクリップとのリンクを解除します。

リバースサーチ操作

リバースサーチは、シーケンスエディター上のビデオクリップやオーディオクリップに使用されているピンのクリップを検索して、トリミングパネル上にロードすることができます。

1. シーケンスエディター上のビデオクリップやオーディオクリップを選択します。
2. [SHIFT]+[ESC] を押すと、ビデオクリップやオーディオクリップに使用されているピンのクリップを検索して、トリミングパネル上にロードします。

クリップの置き換え操作

シーケンスエディターで選択したクリップを、トリミングパネルで開いているクリップに置き換えます。このとき、シーケンスエディターで選択したクリップの各種設定情報は、維持されたまま置き換えます。

1. 置き換えるクリップをトリミングパネルにロードします。
2. シーケンスエディターでクリップを選択します。
3. [EXCHG] を押すと、シーケンスエディターで選択したクリップを、トリミングパネルで開いているクリップに置き換えます。

< ノート >

- 置き換えのできるクリップは、同じ種別 (AV、ビデオ、オーディオ) のクリップです。但し、AV クリップは、ビデオクリップに書き換えることができます。
- トリミングパネルが開かれていないときは、最後に操作したピンウィンドウ上で選択されていたクリップに置き換えます。
- トリミングパネルで開いているクリップの長さがシーケンスエディターで選択しているクリップよりも短いときは、インサートモードでクリップを置き換えると、後続のクリップが前詰めされます。

シーケンスエディターでの操作

トランジションパネルの起動

1. トランジションアイコンを選択します。
2. [OK] または [ENTER] を押すと、トランジションパネルが起動します。

トランジションパネル起動しているときに、Editing Control PadのVRのつまみを引き上げて回転操作すると、トランジション効果が設定されている任意の点での効果を確認することができます。

ビデオエフェクトパネルの起動

1. ビデオクリップを選択します。
2. [OK] または [ENTER] を押すと、ビデオエフェクトパネルが起動します。

ビデオエフェクトパネルのクロップタグを開いているときに、クロップ効果を設定する映像の範囲をEditing Control PadのVRとポジショナーで調整することができます。

- VRのつまみを引き上げて回転操作すると、映像のサイズを調整することができます。
- ポジショナーを操作すると、映像の位置を調節することができます。

キーパネルの起動

1. KeyトラックまたはKey(Ex)トラック上のビデオクリップをアクティブにします。
2. [OK] または [ENTER] を押すと、キーパネルが起動します。

キーパネルのP in Pタグやマスクウインドウを開いているときに、各効果を設定する映像の範囲設定をEditing Control PadのパネルにあるVRとポジショナーで調整することができます。

- VRのつまみを引き上げて回転操作すると、映像のサイズを調整することができます。
- ポジショナーを操作すると、映像の位置を調節することができます。

レコードトゥビデオでの操作

レコードトゥビデオの起動



- [EXPORT] を押すと、レコードトゥビデオが起動します。
すでにレコードトゥビデオが起動している場合は、[EXPORT] を押すと、レコードトゥビデオをアクティブにします。
<ノート>
 - デジタイザーが起動しているときは、レコードトゥビデオが起動できません。マウス操作でデジタイザーを終了して、[EXPORT] を押してください。
 - レコードトゥビデオを終了するときは、マウス操作で行ってください。

VTR デバイスの選択

VTR デバイスを切り替えるには、下記のように操作します。

- Internal VTR を指定するには、[SHIFT]+[V1] を押します。
[SHIFT]+[V1] を押す毎に Internal VTR (50M x2) ▶ Internal VTR (50M x1)
▶ Internal VTR (25M x4) と切り替わります。
- External VTR1 を指定するには、[SHIFT]+[V2] を押します。
- External VTR2 を指定するには、[SHIFT]+[V3] を押します。

<ノート>

VTR デバイスが切り替わるには、時間を要します。

VTR デバイスが切り替わるまで、キー操作やダイヤル操作を行わないでください。

レコードトゥビデオでの操作

VTRの再生コントロール

レコードトゥビデオが起動し、ウィンドウがアクティブな状態で、デバイス選択されているVTRに対して、下記の再生制御が可能です。

- テープを再生するには、[PLAY] を押します。
詳しくは、12 ページ、デジタイザーでの操作を参照してください。
- テープを停止させるには、[STILL] または [ALL STOP] を押します。
- テープを巻き戻すには、[REW] を押します。
- テープを早送りするには、[FF] を押します。
- テープを正方向にコマ送りするには、[STEP +] ([SHIFT]+[FF]) を押します。
- テープを逆方向にコマ送りするには、[STEP -] ([SHIFT]+[REW]) を押します。
- VTR をスタンバイモードにするには、[ALL STOP] または [STILL] を押した後、[STB OFF] ([CTRL]+[STILL]) を押します。
- カセットテープを取り出すには、[EJECT] ([SHIFT]+[STILL]) を押します。

VTRの変速再生コントロール

VTRの変速再生は、ダイヤルボタンとサーチダイヤルで操作できます。

サーチダイヤルを押すごとに、JOGモードとShuttle/Slowモードに切り替えることができます。

JOGモードでは、サーチダイヤルを回す速度に応じて、テープを走行させることができます。

Shuttle/Slowモードでは、サーチダイヤルの回転角度に応じた速度で、テープを走行させることができます。

Shuttle/Slowの切り替えによって、速度可変範囲を変更できます。

Shuttleでは、速度可変範囲が広くなり、Slowでは、速度可変範囲は狭くなります。

ファーストエディットパネルのオープン

[1stEDIT] ([CTRL]+[EXPORT]) を押すと、ファーストエディットパネルが開きます。

レコードトゥビデオでの操作

VTR への録画 (Record Back)

- レコードトゥビデオを行うクリップをマウスで設定します。
- レコードトゥビデオの編集モードを設定します。
 - [SHIFT]+[EXPORT] を押す毎に、イミュードットモードとアッセンブルモードに交互に切り替わります。
 - [SEL] を押す毎にインサート編集モードの編集対象トラックの選択状態が切り替わります。
同時に、インサート編集モード以外の編集モードの場合は、インサートモードに設定されます。
 - [SEL] ([CTRL]+[V]) を押す毎に、Video トラックの選択状態が切り替わります。
 - [SEL] ([CTRL]+[A1]) を押す毎に、Audio CH1 トラックの選択状態が切り替わります。
 - [SEL] ([CTRL]+[A2]) を押す毎に、Audio CH2 トラックの選択状態が切り替わります。
 - [SEL] ([CTRL]+[A3]) を押す毎に、Audio CH3 トラックの選択状態が切り替わります。
 - [SEL] ([CTRL]+[A4]) を押す毎に、Audio CH4 トラックの選択状態が切り替わります。
- VTR を操作し、編集モードに応じて [MARK IN] を押します。
[MARK IN] を押すと、現在使用しているビデオテープのタイムコードをマークイン点として設定します。
[MARK IN] を押さなかった場合は、クリップのイン点がマークイン点として設定されます。
イミュードット編集モード時：
テープ上にクリップの記録を開始した位置のタイムコードが、マークイン点のタイムコードとしてテープ上に記録されます。
アッセンブル編集モード時とインサート編集モード時：
[MARK IN] を押したときのテープの位置が、テープ上のマークイン点としてアッセンブル編集やインサート編集が実行されます。
- [PREVIEW] を押し、編集状態を確認します。
- [REC] ([CTRL]+[INTAKE]) を押し、VTR へ録画します。

< ノート >

- 内蔵型高速 VTR のときは、インサート編集は行えません。
- レコードトゥビデオを行うクリップのクリップ表示フィールドは、編集コントロールパッドでは操作できません。
- プレビュー機能の詳細や注意点については、ノンリニア編集ソフトウェア・リファレンスマニュアルを参照してください。

仮想プレーヤーと仮想レコーダーによる編集の概要

編集アプリケーションでは、ピン/トリミングパネルを仮想プレーヤーデバイスとしてマッピングできます。

また、シーケンスエディターは仮想レコーダーとしてマッピングされます。

この仮想プレーヤーと仮想レコーダーに対して、

- [V1] ~ [V4] と [SEQ] のキー操作による、プレーヤーとレコーダーの切り替え機能
- イン点とアウト点の設定による、プレーヤーとレコーダー間のインサート編集やリブレース編集機能

を使用して、ハードディスク上のに取り込んだ素材データも、2台のVTRにおけるリニア編集の感覚で編集を行うことができます。

また、仮想レコーダーであるシーケンスエディターへの編集は、ディスク上での仮想編集のため、編集結果を実行直後に確認することができます。

ここでは、仮想プレーヤーと仮想レコーダーにおける編集環境の設定方法と、編集の実行操作について説明します。

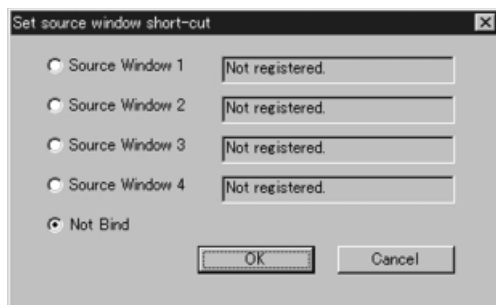
自動編集環境の設定と編集実行操作

ピン/トリミングパネルの仮想プレーヤー マッピング

ピンを仮想プレーヤーとしてマッピングすることが可能です。
V1 ~ V4 を用いて、最大 4 つの仮想プレーヤーが使用できます。
マッピングを行うと、[V1] ~ [V4] を押すことによって、ピンウィンドウを切り替えることが可能です。
マッピングはピンウィンドウごとに設定することができます。

1. ピンウィンドウをマッピングするには、ウィンドウのメニューより、「ツール」をクリックして、「Source Window の割り当て」を選択します。





「Set source window short-cut」ウィンドウが表示されます。

デバイス指定キー [V1] ~ [V4] には

[V1] = Source Window 1

[V2] = Source Window 2

[V3] = Source Window 3

[V4] = Source Window 4

がそれぞれ割り付けられています。

2. 選択したピンウィンドウを、マッピングしたいキー ([V1] ~ [V4]) に合わせて Source Window 1 ~ 4 をチェックします。
デバイス指定キーへのマッピングを無効にするには、「Not Bind」を選択してください。
すでに、該当のデバイス指定キーが他のピンウィンドウなどにマッピングされている場合は、登録されているピンウィンドウ名が表示されていますが、Source Window 1 ~ 4 をチェックすると上書き設定され、以前の設定は無効となります。

仮想プレーヤーのマッピングを行うと、下記の操作によりピンウィンドウの切り替えができます。

- [V1] ~ [V4] を押すと、Source Window 1 ~ 4 に割り付けられたピンウィンドウがアクティブになります。
- あらかじめトリミングパネルが開かれているときに [V1] ~ [V4] を押すと、割り付けられたピンウィンドウに切り替わり、切り替わったピンウィンドウ内の選択クリップが、自動的にトリミングパネルにロードされます。

自動編集環境の設定と編集実行操作

シーケンスエディターの仮想レコーダーマッピング

シーケンスエディターは、起動すると、仮想レコーダーとして自動的にマッピングされます。

[SEQ] や [CREATE] を押すことで、シーケンスエディターをアクティブにすることが可能です。

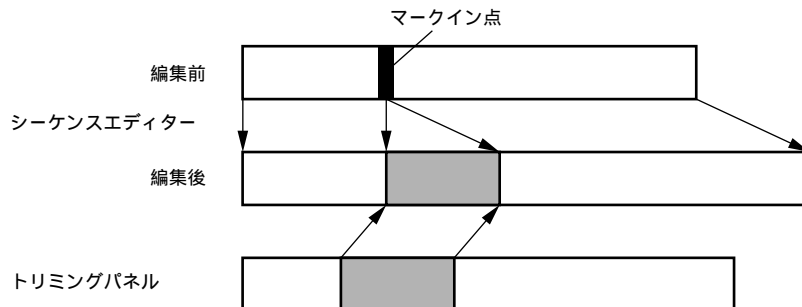
< ノート >

シーケンスエディターが複数起動している場合は、最後に編集操作したシーケンスエディターが、仮想レコーダーとしてマッピングされます。

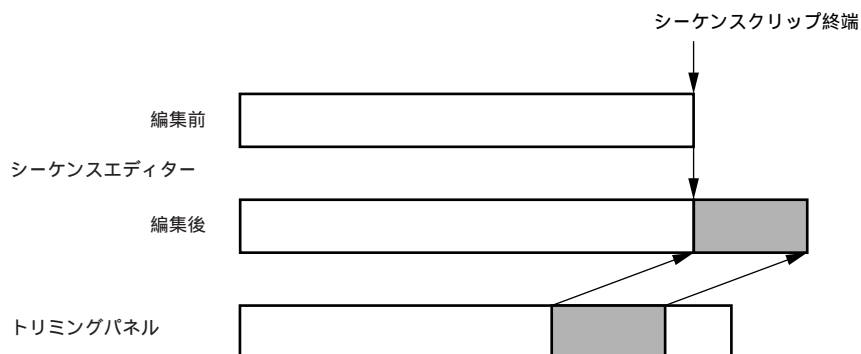
自動編集環境の設定と編集実行操作

インサート編集の動作 ([INS CLIP] 操作)

- シーケンスエディターにマークイン点のみ設定した場合、シーケンスエディターのマークイン点とトリミングパネルのイン点が一致するようにして、クリップが割り込み挿入されます。
このとき、シーケンスエディターにマークアウト点が設定されていても、シーケンスエディターのマークアウト点は無視されます。



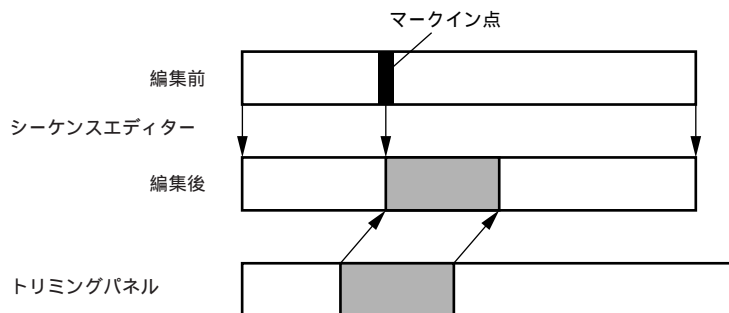
- シーケンスエディターにマークイン点およびマークアウト点を設定しない場合、編集の対象となるトラック上にあるクリップの終端とトリミングパネルのイン点が一致するようにして、クリップが割り込み挿入されます。



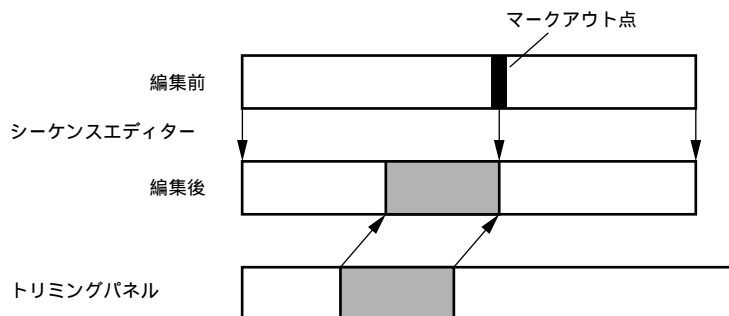
自動編集環境の設定と編集実行操作

リブレース編集の動作 ([EDIT] 操作)

- シーケンスエディターにマークイン点のみ設定した場合、シーケンスエディターのマークイン点とトリミングパネルのイン点が一致するようにして、クリップを上書きします。

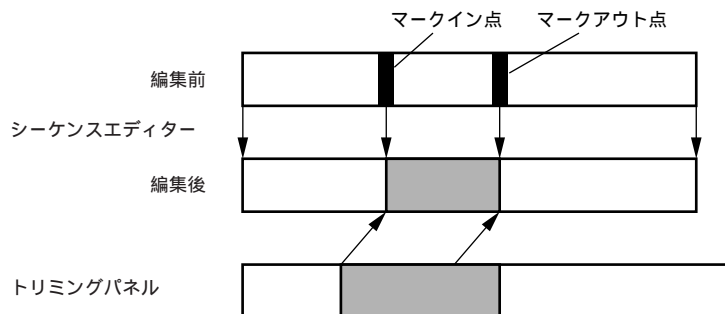


- シーケンスエディターにマークアウト点のみ設定した場合、シーケンスエディターのマークアウト点とトリミングパネルのアウト点が一致するようにして、クリップを上書きします。



自動編集環境の設定と編集実行操作

- シーケンスエディターにマークイン点およびマークアウト点を設定した場合、シーケンスエディターのマークイン点とトリミングパネルのイン点が一一致するようにして、クリップを上書きします。編集される区間の長さは、シーケンスエディターのマークイン点、マークアウト点で決まる長さになります。



- シーケンスエディターにマークイン点およびマークアウト点を設定しない場合、編集の対象となるトラック上にあるクリップの終端とトリミングパネルのイン点が一一致するようにして、クリップを上書きします。



自動編集環境の設定と編集実行操作

編集実行トラックの指定

マッピングした仮想プレーヤーデバイスから仮想レコーダーデバイスであるシーケンスエディターへの編集実行時に、シーケンスエディター上の編集実行トラックを指定することが可能です。

シーケンスエディターをアクティブにして

- [V] を押すごとに、ビデオトラックの選択状態が切り替わります。
- [A1] を押すごとに、オーディオ (A1) トラックの選択状態が切り替わります。
- [A2] を押すごとに、オーディオ (A2) トラックの選択状態が切り替わります。
- [A3] を押すごとに、オーディオ (A3) トラックの選択状態が切り替わります。
- [A4] を押すごとに、オーディオ (A4) トラックの選択状態が切り替わります。
- [KEY] を押すごとに、キートラックの選択状態が切り替わります。
- [SHIFT]+[KEY] を押すごとに、キー (Ex) トラックの選択状態が切り替わります。
- [SHIFT]+[A1] を押すごとに、オーディオ (A5) トラックの選択状態が切り替わります。
- [SHIFT]+[A2] を押すごとに、オーディオ (A6) トラックの選択状態が切り替わります。
- [SHIFT]+[A3] を押すごとに、オーディオ (A7) トラックの選択状態が切り替わります。
- [SHIFT]+[A4] を押すごとに、オーディオ (A8) トラックの選択状態が切り替わります。
- [SHIFT]+[V] を押すごとに、全トラックの選択状態が切り替わります。

自動編集環境の設定と編集実行操作

インサート/リブレース編集実行操作

マッピングした仮想プレーヤーデバイスから仮想レコーダーであるシーケンスエディタへの編集を実行します。

1. [V1] [V2] [V3] [V4] のいずれかを押して、目的の仮想プレーヤーを指定します。
2. 矢印キー [] [] [] [] ([SHIFT]+[4] or [8] or [6] or [2]) を押して、編集素材として使いたいクリップを選択します。
3. [OK] または [ENTER] を押して、トリミングパネルのタイムラインに選択クリップを表示します。
あらかじめトリミングパネルが開かれている場合は、自動的に選択クリップがタイムライン上に表示されます。
4. 仮想プレーヤーのトリミングパネルを操作して、プレーヤー側のマークイン点とマークアウト点を設定します。
 - [MARK IN] を押し、現在のカレントタイムバー位置にマークイン点を設定します。この時、クリップのイン点も同時に変更されます。
 - [MARK OUT] を押し、現在のカレントタイムバー位置にマークアウト点を設定します。この時、クリップのアウト点も同時に変更されます。
5. [SEQ] または [CREATE] を押して、仮想レコーダーであるシーケンスエディターを指定します。
6. シーケンスエディタを操作して、レコーダー側のマークイン点とマークアウト点を設定します。
 - [MARK IN] を押し、現在のカレントタイムバー位置にマークイン点を設定します。
 - [MARK OUT] を押し、現在のカレントタイムバー位置にマークアウト点を設定します。詳細は、インサート編集の動作 (50 ページ) とリブレース編集の動作 (51、52 ページ) を参照下さい。
7. [V] [A1] [A2] [A3] [A4] [KEY] などを用いて、編集実行トラックを指定します。詳細は、53 ページの編集実行トラックの指定を参照下さい。
8. [INS CLIP] ([SHIFT]+[EDIT]) を押して、インサート編集を実行します。
または、[EDIT] を押して、リブレース編集を実行します。
インサート編集やリブレース編集は、トリミングパネルがアクティブなときも実行できます。
9. [PREVIEW] を押すと、シーケンスに貼り込まれたクリップが確認できます。

自動編集環境の設定と編集実行操作

< ノート >

- トリミングパネルが開かれていないときは、最後に操作したピンウィンドウ内で選択されているクリップが、インサート編集やリプレイス編集の対象になります。
- インサート編集は、ビデオトラックが選択されている場合にのみ有効です。
- リプレイス編集時にビデオトラック・キートラック・キー (Ex) トラックのうち複数のトラックが選択されている場合、ビデオトラック > キートラック > キー (Ex) トラックの優先順でリプレイス編集対象トラックが決定されます。
- インサート編集とリプレイス編集を行うときに、複数のオーディオトラックが選択されている場合、A1 トラック > A2 トラック > A3 トラック > A4 トラック > ...の優先順でオーディオ編集対象トラックが決定されます。
- [SEQ] や [CREATE]、また [V1] ~ [V4] を押して、シーケンスエディターと仮想プレーヤーを切り替える場合、選択したウィンドウがアクティブになるまでキー操作を行わないでください。

自動編集環境の設定と編集実行操作

ダイレクトデジタイズ実行操作

ダイレクトデジタイズ機能を使うと、クリップをピンにデジタイズすることなく、直接シーケンスエディターのタイムライン上でインサート編集やリプレース編集を実行することができます。

1. [CREATE] または [SEQ] を押し、シーケンスエディターを指定します。
2. 必要に応じて、目的のカレントタイムバー位置で [MARK IN] を押し、マークイン点を設定します。
[MARK OUT] を押し、マークアウト点を設定します。
3. [V] [A1] [A2] [A3] [A4] [KEY] などを用いて、編集実行トラックを指定します。
詳しくは、53 ページの「編集実行トラックの指定」を参照してください。
4. [INTAKE] を押し、対象のデジタイザーをアクティブにします。
5. マニュアルモードでイン点やアウト点を登録しないでデジタイズを行う場合は、デバイス選択されている VTR を再生状態にします。
バッチモードでデジタイズを行う場合や、マニュアルモードでイン点やアウト点を登録してデジタイズを行う場合には、ログリストを作成します。
6. [EDIT] または [INS CLIP] を押し、編集を実行します。

- リプレース編集を行う場合 [EDIT] を押します。
[EDIT] を押し、デジタイズが実行されて指定のピンにクリップ登録されるとともに、シーケンスエディターのタイムライン上に、クリップがリプレース編集されます。
- インサート編集を行う場合 [INS CLIP] ([SHIFT]+[EDIT]) を押します。
[INS CLIP] ([SHIFT]+[EDIT]) を押し、デジタイズが実行されて指定のピンにクリップ登録されるとともに、シーケンスエディタータイムライン上に、クリップがインサート編集されます

< ノート >

- インサート編集は、ビデオトラックが選択されている場合にのみ有効です。
- リプレース編集時にビデオトラック・キートラック・キー (Ex) トラックのうち複数のトラックが選択されている場合、ビデオトラック > キートラック > キー (Ex) トラックの優先順でリプレース編集対象トラックが決定されます。
- インサート編集とリプレース編集を行うときに、複数のオーディオトラックが選択されている場合、A1 トラック > A2 トラック > A3 トラック > A4 トラック > ... の優先順でオーディオ編集対象トラックが決定されます。
- ダイレクトデジタイズの実行操作 ([INS CLIP] または [EDIT] 押し操作) は、必ずデジタイザーがアクティブな状態で実行してください。デジタイザーがアクティブな状態でないと、デジタイズは実行されません。
- [SEQ] や [CREATE]、また [INTAKE] を押し、シーケンスエディターとデジタイザーを切り替える場合、選択したウィンドウがアクティブになるまでキー操作を行わないでください。

デリート/リムーブ編集実行操作

シーケンスエディターにおいて、マークイン点からマークアウト点区間のクリップを自動分割してデリートまたはリムーブすることが可能です。

- 1.シーケンスエディターを操作し、デリートまたはリムーブしたい位置で [MARK IN] を押して、マークイン点を設定します。
また、[MARK OUT] を押し、マークアウト点を設定します。
- 2.[V] [A1] [A2] [A3] [A4] [KEY] などを用いて、デリートまたはリムーブしたいトラックを指定します。
詳しくは、53 ページの「編集実行トラックの指定」を参照してください。
- 3.[DELETE] または [REMOVE] を押して編集を実行します。

- 後続のクリップを前詰めする場合、[DELETE] を押します。
[DELETE] を押すと、シーケンスエディター上のマークイン点/マークアウト点部分のクリップが分割され、マークイン点からマークアウト点区間のクリップが削除されます。
ビデオトラックが選択されているときは、後続のクリップが前詰めされます。
- マットクリップに置き換える場合、[REMOVE] を押します。
[REMOVE] を押すと、シーケンスエディター上のマークイン点/マークアウト点部分のクリップが分割され、マークイン点からマークアウト点区間のクリップがマットクリップやブランクに置き換えられます。

< ノート >

ビデオトラックを選択してデリート編集を実行する場合、後続のビデオクリップやビデオクリップにリンクされているクリップが前詰めされるために、移動対象とならないクリップが上書きされる場合があります。

ディバイド&デリートレフト/ライト機能

シーケンスエディターにおいて、カレントタイムバー位置でクリップを自動分割して、クリップの左右部分を削除することが可能です。

- 1.シーケンスエディターを操作し、目的の位置にカレントタイムバーを移動します。
- 2.[V] [A1] [A2] [A3] [A4] [KEY] などを用いて、対象トラックを指定します。
詳しくは、53 ページの「編集実行トラックの指定」を参照してください。
- 3.[DEL L] または [DEL R] を押して編集を実行します。

- 左側部を削除する場合、[DEL L] を押します。
[DEL L] を押すと、シーケンスエディター上のカレントタイムバー位置の対象クリップが、カレントタイムバー位置で分割され、クリップ分割前の左側部が削除されて、後続のクリップが前詰めされます。
- 右側部を削除する場合、[DEL R] を押します。
[DEL R] を押すと、シーケンスエディター上のカレントタイムバー位置の対象クリップが、カレントタイムバー位置で分割され、クリップ分割前の右側部が削除されます。
ビデオトラックが選択されているときは、後続のクリップが前詰めされます。

< ノート >

ビデオトラックを選択してディバイド&デリートレフト/ライト機能を実行する場合、後続のビデオクリップやビデオクリップにリンクされているクリップが前詰めされるために、移動対象とならないクリップが上書きされる場合があります。

松下電器産業株式会社 放送システム事業部

〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号 ☎(06) 6901-1161

VQT9259

F0301W 回